

平成21年度 学校評価計画書

石川県立中島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高め自律心のある生徒を育成する。	① 登校時における遅刻指導の徹底を図る。	生徒課 学年会	昨年度の遅刻者数は一日平均3,2人、その割合は、3,2%であったが、更なる遅刻者の減少を目指したい。	【成果指標】（生徒） 一日に遅刻する生徒の割合。	A 2%未満であった。 B 3%未満であった。 C 4%未満であった。 D 4%以上であった。	C	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。 評価は7月と12月の2回
	② 生徒に対し、容儀指導の意義を理解させ、指導の徹底を図る。	生徒課	生徒の自己評価では、容儀がきちんと整っていると答える生徒は78,9%であった。	【成果指標】（生徒） 容儀がきちんと整っている。	A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 75%以上であった。 D 75%未満であった。	B	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。 評価は7月と12月の2回
	③ 授業に集中できない生徒に対して、個別指導を行う。	生徒課 教務課	授業に集中できる生徒は、76%で評価はCであった。教職員が授業を創意工夫し、興味・関心を高めることが求められる。	【努力指標】 私語等をして授業に集中できない生徒に対し、個別の事後指導を行っている。	A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%未満であった。	C	評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。 評価は7月と12月の2回
	④ 環境美化週間を設定し、保健委員会活動を活発にする。	保健指導課 学年会	生徒はまじめに清掃に取り組んでいるが、生徒数が減少し担当者が少なくなっている中で、より徹底した環境美化活動が求められる。	【満足度指標】（生徒） 環境美化週間を月1回設けて、保健委員会の活動を活発にする。	A 委員会活動が活発になり、年間を通して美化活動が全て計画通りに実施できた。 B 委員会活動が活発になり、環境美化週間はほぼ計画通りに実施できた。 C 委員会活動は活発になったが、美化活動はやや物足りなかった。 D 委員会活動はあまり活発にならず、美化活動も物足りなかった。	B	評価でA+Bが80%以下の場合、取り組みを見直す。 評価は7月と12月の2回

	⑤ 生徒一人一人をよく観察し、問題行動の再発を防ぐ。	生徒指導課	生活態度・授業態度は、概ね良好であるが、指導を継続したい。	【成果指標】 生徒の生活態度・授業態度がきちんとしている。	A 90%以上であった。 B 70%以上であった。 C 50%以上であった。 D 50%未満であった。	A	評価がC以下の場合は、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
--	----------------------------	-------	-------------------------------	----------------------------------	--	----------	-------------------------	--------------

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
2 基本的な学習習慣を身につけ、基礎基本の習得を図るとともに学習意欲の高揚を促す。	① 個々の生徒のレベルに対応した、より適切な授業を行い、習熟度別少人数学習のメリットを生かすさらなる工夫を行う。	教務課 教科	英語・数学の習熟度別授業はわかりやすいと感じている生徒は82%と向上した。教員内部でも91%が習熟度別授業によって授業改善が進み、成果が得られたと考えている。	【満足度指標】（生徒） 習熟度別授業は、数学や英語を理解するのに役立っている。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C	評価がC以下の場合は、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
	② 指導法の改善や教材の開発を進め、授業公開・研究協議を充実させる。		前年は3教科において要請訪問、研究授業を行い授業力向上に努め、他教科でも工夫が進んだ。内部73%が学習指導計画を工夫し授業研究を行ったと判断している。更なる向上の余地がある。	【努力指標】 学習計画を工夫し、授業研究を計画的に実施している。	A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	評価がC以下の場合は、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
	③ 放課後・長期休業中を活用して特別学習指導を実施する。		89%の生徒が教師は学習意欲を高めようと努力していると感じているとし、授業力向上が顕現している。小テストや課題テストの実施とともに、興味関心を喚起する取り組みで、生徒の授業への満足度を高いものにする。	【満足度指標】（生徒） 授業評価において、「先生は、生徒たちの学習意欲を一層高めようと努力している」と感じているか。	A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	評価がC以下の場合は、原因を究明し改善を図る。	評価は日々行う。

	④ 適切な家庭学習課題を与えるなどして、家庭学習の定着を図る。	家庭学習の課題を恒常的に準備した教師は36%である。適切な家庭学習課題を準備し、粘り強い指導が求められる。	【努力指標】 適切な家庭学習課題を準備し、事後指導もていねいに行ったか。	A 90%以上 70%以上 C 50%以上 50%未満	B B	評価がC以下の場合は、原因を究明し改善を図る。	評価は7月と12月の2回
	⑤ 生徒の読書意欲を高め、図書室の利用の増大を図る。	78%の生徒が図書室を利用し大幅に読書意識が高まった。「朝読書」や「学級文庫」の指導等の成果である。取り組みを継続したい。	【成果指標】（生徒） 図書室の利用者数、図書の貸し出し数が増加したか。	A 90%以上の生徒が図書を借りた。 B 80%以上の生徒が図書を借りた。 C 図書を借りた生徒は50%以下だ。 D 図書を借りる生徒は少ない。	 C	評価がC以下の場合は、原因を究明し改善を図る。	評価は年度末に行う。

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
3 生徒の目的意識や働く意欲を高めるため、外部講師の活用を図るなどキャリア教育を推進する。	① 進路実現のために、一般常識の定着を図る対策を行う。	進路指導課 学年会	昨年度は毎週末課題を2、3年生に出して進路実現への取り組みを行った。	【努力指標】 進路実現の為に一般常識の定着を図る課題を年間を通して毎週実施している。	A 実施率は100%であった B 実施率は80%以上であった。 C 実施率は60%以上であった。 D 実施率は60%未満であった。	B	評価がC以下の場合は、取組みを見直す。	評価は年度末に行う。
	② キャリアアドバイザーと連携し進路実現の成果が上がるように取り組む。		キャリアアドバイザーの指導により生徒が抱える進路についての悩みの把握に一定の効果があった。	【努力指標】（生徒） キャリアアドバイザーとの面談を通して、進路実現に向けて大変効果があった。	A 100%であった。 B 90%以上であった。 C 80%以上であった。 D 80%未満であった。	A	評価がC以下の場合は、取組みを見直す。	評価は年度末に行う。

③個に応じた進路指導を進めるために面談を通して進路対策を早めに行う。	進路指導課	自分の進路の目標達成に向けて、面談を通して早めに進路対策に取り組む生徒はまだ少ない。	【努力指標】 進路指導担当者や担任が進路面談を積極的に行っている。	A 月に1回以上生徒全員の面談が行われた。 B 面談が月に80%以上の生徒に行われた。 C 面談が月に70%以上の生徒に行われた。 D 面談が月に70%未満の生徒に行われた。 B	評価がC以下の場合、原因を究明し改善する。	評価は年度末に行う。
------------------------------------	-------	--	--------------------------------------	--	-----------------------	------------

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 演劇教育・スカウティング部活動を通して主体性や協調性のある生	①演劇教育推進課の機能を改善し全教員が対応できる演劇教育を目指す。	総務 教務 演劇	全教員で演劇教育を推進できるようになったとする割合が92%と年々高くなっている。	【満足度指標】 全教員で演劇教育を推進できるようになったと思う。	A 95%以上 90%以上 C 80%以上 80%未満 A	B D 評価がC以下の場合、原因を究明し改善を図る。	評価は年度末に行う。

徒の育成を図るとともに、七尾東雲高等学校との連携拡充に努める。	② 演劇コースの成果発表として、卒業公演を成功させる。	推進課	内部100%、生徒96、保護者94%が卒業公演が成功し、意義あるものであるとしている。本校最後の卒業公演も保護者、地域との連携を図りたい。	【成果指標】 （生徒） 演劇教育の集大成としての卒業公演が成功裡に行われた。	A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	B D A	評価がC以下の場合は原因を究明し、改善策を七尾東雲高校と協議する。	評価は7月に行う。
	③ スカウティング部活動により、人間形成を図る。	スカウティング部	平成18年度より普通コースにおいて県ボーイスカウト連盟の協力を得ながら、体験活動を行い忍耐力、達成感を養成した。	【満足度指標】 （生徒） スカウティング部活動が人間形成に役立っていると思う。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C	評価がC以下の場合は取り組みを見直す。	評価は年度末に行う。
	④ 七尾東雲高校との連携を強化する。	演劇推進課 総務課	今年度をもって本校は閉校するが、これまでの成果を七尾東雲高校に引き継ぐための取り組みが求められる。	【努力指標】 七尾東雲高校との連携が充分にできている。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	評価がC以下の場合は原因を究明する。	評価は年度末に行う。